

早期の胃がんは、
ご自分ではまず気づきません。
見つけれられるのは、
専門家だけです。

早期の胃がんは、自覚症状がないのが普通です。
あったとしても、胸やけ、吐き気、食欲不振など、
「今日はちょっと調子悪いかな」
と思うような軽いものです。
「異常を感じたら検診に行こう」では、
手遅れになる場合があります。

早期発見するためには専門家による検診を
2年に1度、定期的に受けることが大切です。

ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、
食事がつかえるなどの症状がある場合は
次の検診を待たずに医療機関を受診してください。



胃がん検診の流れ

1. 受診場所・受診日を選ぶ

同封の一覧表をご覧ください。

2. 電話でお申し込みください

TEL 000-0000-0000

3. 受診

自己負担金0,000円を支払い受診してください。

- 受診内容
- ・問診 ・バリウムによるX線検査

4. 結果*

約2～3週間後に自宅に郵送されます。
検査結果を確認してください。

- 対象者：〇〇市在住の50歳以上の方
- 受診期間：令和〇〇年〇月〇日～
令和〇〇年〇月〇日まで

胃がん検診は助成がない場合7,000円程度かかりますが、
市から助成が出るため、自己負担0,000円で受診できます。

検査費用	約 0,000 円
- 助成金	約 0,000 円
自己負担金	0,000 円

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

お問い合わせ先

〇〇市〇〇部〇〇課
〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号
電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇

SAMPLE

最後に
胃がん検診を
受けたのは、
何年前ですか？

SAMPLE

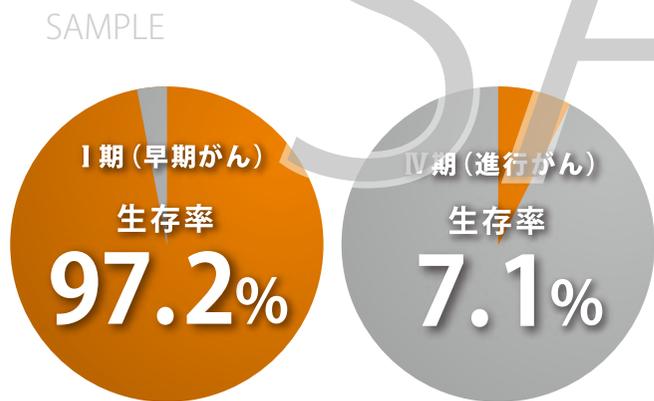
安心のために、

2年に1度は胃がん検診

自己負担は0,000円です。

胃がんはわが国では
50歳代以降に罹患する人が多く
がんによる死亡原因の
上位に位置するがんです。

胃がんはなりやすいがんですが、
治しやすいがんでもあります。^{※1}
早期に見つければ、
95%以上治ります。^{※2}



※1 胃は、がん罹患した人が2番目に多い部位です。(2016年男女計)
出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」
(全国がん登録)

※2 ここでいう「治る(=治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率です。
相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。
出典：全がん協加盟施設における5年生存率(2009~2011年診断例)

胃がん検診は、
バリウムによるX線検査です。
10分ちょっとで終わります。



今どきのバリウムは
たったこれだけですよ

↓
現在

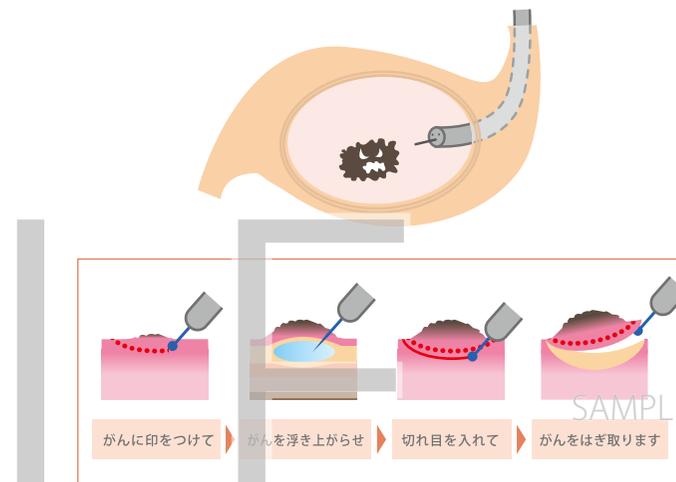
(150~200ml程度)

検診で「要精密検査」となった場合は
その後必ず精密検査を受けてください。
精密検査は胃内視鏡検査です。^{※3}

※3 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

胃内視鏡検査については、裏面のお問い合わせ先におたずねください。

胃がんが見つかったら、
早期なら胃を取らずに、
内視鏡でがん細胞だけ
はぎ取れます。



術後の生活も
今までと変わりません。



出典：国立がん研究センター がん情報サービス
このリーフレットは、国立がん研究センター希望の虹プロジェクトが作成しました。